

大学の世界展開力強化事業 構想概要 神戸大学

【構想の名称】(タイプA-1) 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム

【構想の概要】グローバル化の進む今日においては、自然災害であるか人災であるかを問わず、近隣諸国との密接な協力の下、被害拡大防止に向けた迅速な活動に取り組むことのできるグローバルな人材養成が急務である。

本プログラムでは、神戸大学大学院国際協力研究科、復旦大学国際関係・公共事務学院及び高麗大学校国際大学院がコンソーシアムを形成し、将来の東アジア地域のみならず、世界レベルで活躍するリスク・マネジメント専門家の養成に向けた同一かつ質の高い協働教育を展開する。

■ プログラムの目的・養成する人材像

神戸大学、復旦大学及び高麗大学校がコンソーシアムを構成し、三大学が有する世界レベルの大学院教育を通して「東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家」を養成することを目的とする。

【グローバル人材像】①自然災害時のみならず経済危機、社会情勢危機時におけるリスク・マネジメントに関わる応用性のある専門的な知識とスキル、②三か国が拠点となり日本・中国・韓国に関する経済・政治・人的資源・開発運営等社会科学全般の専門性、③自国語に加えて英語と現地語による政策・実施支援ができるレベルのコミュニケーションスキルを習得し、④異文化を理解した上で、公共機関や国際機関、NPOにおいて世界の危機時における問題の分析、政策策定を主導し、さらに災害の現場でチームの一員としてチャレンジ精神をもってグローバルに活躍できる人材。



〈復旦大学〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○大学間交流の枠組みの形成

三大学の教員と事務職員で形成されるコンソーシアム運営委員会を設置し、運営委員会がカリキュラムの構成、単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るまでの運営を行うとともに、評価委員会では外部からの視点を含めた評価を行って、大学院教育における質の保証を担保する。

○単位の相互認定や成績管理、学位授与に至るプロセス

三大学間において本交流プログラムに沿った各大学特有のリスク・マネジメント履修コースを設定し、本コンソーシアム運営委員会において各大学の履修コースのカリキュラムの質及び水準、単位の認定基準、成績基準等を協議し同質性を確保する。各コースの講義科目を履修及びインターンシップを実施した大学院生の成績については、コース設定大学が自国の基準により評価・認定するが、最終的には運営委員会におけるコース修了判定を経て各コースの修了証を交付する。交換留学制度による大学間における取得単位は、所属大学の規則に定められた基準により修了要件の単位として認定される。また、神戸大学と高麗大学校間のダブル・ディグリープログラム協定により定められた要件により単位相互互換が認められた場合は、両大学の学位授与審査の上、双方の学位が授与される。

〈高麗大学校〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○シラバス

三大学のシラバス等については、英語に翻訳し、各大学の講義目的・概要、講義内容の質や成績評価の可視化を図る。

○大学内外への広報体制について

本プログラムにおいては、ホームページ、ワークショップ及びパンフレットの3つの媒体を通じて積極的に情報公開をする。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○履修面・学習面・生活面にわたるサポート

指導教員は自らの指導する大学院生に対する研究教育指導を定期的に行う。派遣学生は指導教員に対して派遣期間中の月1回レポートを作成し、指導教員に送付する。プログラム担当教員・事務職員が、派遣学生の履修状況について確認するとともに、留学前、留学中、帰国後の学業生活や就職活動等における体系的な情報をメールやスカイプを通じて提供できる体制を構築している。派遣学生毎に設定されたチューターが、派遣学生の生活レベルの相談に応じる。

○産業界・公共機関・国際機関等との連携について

国内外におけるインターンシップの体験の機会及び産業界等からの講師等の派遣は確保されている。また、現地の大学において現地就職説明会等の参加を派遣学生に対して積極的に勧奨するとともに、公共・国際機関及びNPOの関係者に学生が話を聞くことの出来る機会を積極的に設けている。中国においては、神戸大学中国事務所を活用し、就職に関する情報や同窓生に関する情報を提供する。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○日本人学生の派遣

平成23年度には高麗大学校へ1名、平成24年度には復旦大学、高麗大学校へ年3名程度の派遣を行う。平成25年度～平成27年度には中韓両国に対して毎年5～8名程度の派遣を行う。

○外国人留学生の受入れ

平成24年度には復旦大学、高麗大学校より年3名程度の受入れを行う。平成25年度～平成27年度には中韓両国に対して毎年5～8名程度の受入れを行う。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	1	6	10～16	10～16	10～16
学生の受入		6	12～16	12～16	12～16